

■R02.01.07 市長定例記者会見内容

日時 令和2年1月7日(火) 午前11時～11時30分

場所 庁議室

出席 市長、危機管理監、企画部長、地域創生部交流推進調整監、市長公室長
酒田記者クラブ 9社(山形新聞、荘内日報、読売新聞、朝日新聞、毎日新聞、河北新報、NHK、SAY、YBC)

■市長発表内容

なし

■懇談・フリー質問

記者／新年の抱負は。

市長／今年はオリンピックイヤーということもあり、日本全体が沸き立つ年だろうと思っている。東京オリンピック・パラリンピックのホストタウンということで、ニュージーランドのトライアスロンチームが事前合宿を張ってくれるということから、その活躍に向けて市としても力を出していきたい。大いに東京オリンピック・パラリンピックに対しても期待しているし、これがきっかけとなって、またニュージーランドとの交流が活発になればいいという思いを持っている。今年度は年度後半になるが、駅前の市街地再開発事業が一部竣工する。A棟が完成してオープンするので、それに向けて工事が順調に進むように進行管理してもらいたいと思うし、長年の懸案だった駅前に新しい建物ができて、にぎわいの一つのエリアとして機能を果たすということに期待したいと思っている。それ以外でも統合保育園、消防本署など、さまざまなビッグプロジェクトが具体的に工事にかかることになっているので、そういう面では、完成をみる部分もあるが、酒田のまちとしても、なお一層、活気を帯びる年ということで期待をしているところ。2020年度について言えば、ハードだけでなく、さまざまな事業が新たにスタートする。それからクルーズ船がまた多く入港するとか、まちの賑わい、あるいは子育てや教育振興につながるさまざまな施策が更に動き出す年だということを持っているので、是非ともこのまちの発展のために、これからも汗をかいてまいりたいという思いを強く持っている。

選挙の時の公約でも言ったが、屋内児童遊戯施設についてもプランの具体化に向けて、少し動き出しができればいいという強い思いを持っている。

実はビッグニュースがあるという話を昨年暮れに言って、それは何かという問い合わせがあった。今回、「田舎暮らし」という本の中で「シニア世代が住みたい田舎」の第1位になったということで、表紙のところの一番下に「山形県酒田市」と出ている。今年への期待、大いなる弾みになる話題ではなかったかという思いを持っている。記者／この田舎暮らしの雑誌、毎年、住みたい田舎ランキングをやっているか。

市長／毎年やっている。昨年が総合 10 位と良かったので着目したが、移住定住、人口減少の抑制という意味では、我々もさまざまな施策を打ってきている自治体なので、こういったものに神経質になっていて、今回、総合で第 4 位。1 位が山口県宇部市、2 位が鳥取市、3 位が静岡市、4 位が酒田市となっている。5 位に栃木市、6 位に山口市、結構名のある市が載っている。秋田市は 11 位、北九州市が 12 位、鶴岡が 13 位。3 つの部門があって、「シニア世代が住みたい田舎部門」、「子育て世代が住みたい田舎部門」、「若者世代が住みたい田舎部門」というものがあるが、「若者世代が住みたい田舎部門」では酒田は 13 位。「子育て世代が住みたい田舎部門」では酒田は 23 位まで落ちてしまった。ただし、「シニア世代が住みたい田舎部門」で第 1 位になった。昨年は 2 位。1 位は北九州だったがそれを抜いた。今回、北九州は 3 位に後退した。ここで頑張ったから総合 4 位まで上がったということになるのかなと思っている。この本の中で、1 位になると 3 ページぐらいの特集を組んでもらえる。取材を受けているので、昨年のうちに実はわかっていた話だが、発売が 1 月 4 日だったので、言いたくてもなかなか言えなかったのが正直なところで口を濁していた。3 ページにわたって酒田が紹介されている。どちらかという八幡地域で移住された方々の例とか、移住施策の中身についてページを割いてもらった。かなり PR になるという思いから、これにランキングするというところに着目していた。1 位までは難しいかなという思いはあったが、今回「シニア世代が住みたい田舎部門」で 1 位になれたということで特集を組んでもらえた。酒田市を売り込むということでは大きな効果をもたらすのではないかなと思っている。想定外にナンバーワンが取れたので、年の初めとしてはビッグニュースになったという思いでいるところ。記者／「シニア世代が住みたい田舎部門」で 1 位、総合部門で 4 位ということだが、ランキングが上がった要因はどのようなところと考えているか。

市長／コメントにも書いていて、いろいろな条件があるが、65 歳以上のシニア世代が魅力を感じてくれているのは、鳥海山とか日本海とか最上川、庄内平野、それから食文化だとか、医療福祉の環境、健康づくりのためのさまざまな施策こういったものが充実していると。これは人口で割ることになるが、酒田は人口が 10 万ちょっとで、大都市に比べると施策の効果という面でしっかり評価されているかなというところがある。こういった施策面での充実、とりわけ生きがいにつながるさまざまな交流事業を展開しているので、そういう面ではきちっと評価されたのではないかなと思っている。具体的にはさまざまな要素を点数化して、最終的には 87 項目の点数に移住者の合計人数割る人口とか、人口規模に対して移り住んできた人たちの数とか、いろいろな要素を加味して点数化して、1、2、3、4 位を決めることになっている。人口の割にシニア世代の移住者人口が多かったということだと思う。シニア世代についていうと、シニア世代の住みたい田舎アンケート 33 項目の点数にシニア世代の移住者数割る人口かける 1000 とか、いろいろな調整数値も入っているのか設問の数値かける 0.1 などあって、その点数の結果としてナンバーワンに輝いている。

記者／移住者の実数は出ているか。

市長／そういうものをデータ化している。移住者数割る人口で出てくるので、このポイントが高いのだと思う。10万人規模の都市の割合としては、移住者が多かったということだと思う。横浜市とかは何百万もいるところなので、そこに移住定住の話になると確かに率としては落ちるかなと思う。

記者／実際の移住者の数は。

市長／後で取材をお願いしたい。去年は、総合は10位だったが、「所さんの目がテン」という番組で取り上げていただいて少し話題になった。そういう面では、雑誌に載るということもある意味まちのPR効果はあると感じていたので、今回、シニア世代部門で1位になったということは非常にうれしい。しかし、子育て世代だとか、若者世代にとって住みやすいまちとしてどういう仕掛けをしていかなければいけないか、ある意味課題も突き付けられた感じもしている。コメントの中で言っているが、子育て世代だとか、若者世代がもっと住みやすい地域づくりのために頑張らなければいけないと決意を新たに今年ビッグニュースだったという思いをしている。

記者／1位になったのは過去通じて初めてか。

市長／過去にはないと思う。私が就職した当時、40年くらい前だが、名古屋大学の先生がアンケート調査で住みやすいまちで1位だったか、上位になったかという話を聞いたことはある。それ以降こういったもので1位になったことは聞いたことがない。東洋経済とかいろいろなところでやっている。1桁だとか上位に食い込んだとか、あまり話には聞いたことがなかったので、そういう面では私にとってはビッグニュースだった。

ちょうど山居倉庫の道路を挟んで向かい側、前の消防本署があった空き地部分、今駐車場になってるが、生涯活躍のまち構想ということで、あそこに移住定住者向けの高齢者の住宅を作れたらという構想が動いているし、それから東京に吉祥寺テラスというものを作った。吉祥寺の昔伊勢丹があったビルの1階に、酒田市役所東京吉祥寺テラスというものを作った。隣に荘内銀行の東京吉祥寺支店があって、そこに3、4人いる。委嘱をして移住定住のPRだったり、観光のPRしてもらって、酒田市役所東京吉祥寺テラスをPR拠点と位置付けをしてきた。それも全部こういった流れの中でやってきている話なので移住定住者を募集すると。武蔵野市は住みたいまちと言われている。そういったところにアピールすることで、移住定住者の実績に結びつけられればという思いから、荘内銀行さんの協力をいただきながら取り組んできた経緯もあるので、そういう意味では、移住定住で評価をいただけたのはさまざまな施策をやったよかったなど。また現実的な施設を作るところまで消防本署跡地は進んでいないが、これから弾みになる話題だったなという思いをしている。

記者／大きなまち部門は人口10万以上だが、今日下のロビーで見たら人口が101,431人だが…

市長／来年は小さな町ランキングに移行するだろう。こうなると、ここで1位を取るの
は難しい。ここだと1位が大分県豊後高田市。山形県では遊佐町が総合で38位に入
ってくる。あと山形県は入っていない。

記者／そこで勝負するよりも大きいまち部門に留まりたいということ…

市長／このままだと留まれずに来年小さな町部門になって、ランキングが下がって出
てくるだろう。地域に出向いても言っているが、まずは売り込みが第一段階でやるべ
き、酒田の市長としての役割だと言いつけてきたので、そういう意味ではこういった
ナンバーワンになれたことは、売り込み策としては大成功かなという思いは持っている。

記者／山居倉庫前の消防本署の跡地、移住定住者向けの住宅建設構想が動いていると
いうことだが、具体的に何戸程度とかどういうレベルまで進んでいる状況か。

企画部長／その件については民間事業者から聞き取りする作業を地域共生課でやって
いる。これから具体的な戸数とか事業内容が見えてくるような段階。まだこういうも
のを作りますという段階にはいっていない。

記者／作ることを検討しているのか。

市長／構想エリアであるという理解をしてもらえば。

企画部長／民間投資を促すという仕組みを作りたいと思っている。投資をされる方の
意見を今伺っているという状況。現在、民間の事業者になりえる方と話し合いを進め
ているというのが現状。

記者／住宅会社か。事業者か。

企画部長／大きく言えば開発デベロッパーだが、そんな規模ではない。

記者／聞き取っている事業者は複数という認識でいいか。

企画部長／複数者とヒアリングをしている。4、5社は来ているはず。

■その他

なし

◆その他配布資料

- ①酒田市と山形県立酒田東高等学校との連携に関する協定について（企画調整課）
- ②第33回酒田日本海寒鱈まつりを開催します（交流観光課）

◎酒田東高等学校との連携協定に関して

記者／酒田東高校との連携は具体的にどういうことを想定しているのか。

企画部長／これまでも酒田東高校とはサンロクを中心に起業家精神を育成するような
講座とか、ビッグデータ、オープンデータを活用した研究とか、クルーズ船のおもて
なし活動に対する協力参加をしてもらっている。それから探求科ができていくわけだ

が、総合的な学習での行政側の支援とか、これまで取り組んでいたことに加えて、今回の協定の中では東北公益文科大学との連携に関する事項を盛り込んだり、そういった内容にしている。これまでも一緒に連携してまちづくりにも協力をしていただいていたが、それを明文化するというのが主たる目的。行政側からすれば、いったん高校生が出て行ってしまいが、いずれ地域に戻ってきてもらいたいという思いもすごくあるので、地方創生に向けた取り組みで、学校側でも地元と協力とか一緒にまちづくりを進めたいという思いがあったので、協定を結ばせていただいたということ。

記者／進学校だと外に出ていく生徒が多いと思うが、卒業した後も情報のやりとりをするような仕組みとか、そういうところまでは…

企画部長／そこまでは難しいかもしれない。

記者／いるうちに地域の魅力を知ってもらいたいな感じか。

企画部長／酒田南高校、酒田光陵高校とも協定を結んでいるので、今後、酒田西高校ともそういったことを話していかないといけないかなと思っている。

市長／東北公益文科大学への入学者が非常に少ない。進学校ということもあるが、大学への進学という面では地元にもっと残ってもらってもいいのかもしれない。東北公益文科大学と連携に関する事項というのはそういうことも含めて、人口減少対策としてこの世代の人からも残ってもらいたいという思いが強くなるので、我々が協定を結ぶにあたっては、東高校と少し綿密にいろいろやり取りをさせてもらいたいと思っている。

記者／中高一貫校について、先月中旬くらいに2024年4月開校予定とあったと思うが、それについての市長のコメントは。

市長／いい学校を是非立ち上げてもらいたい。その一点につける。当然のことながら同じ西学区なので、そういう面ではこの地域の子供達も通う可能性がある学校になるはずなので、設備、教職員の皆さんも含めて期待に応えられるようなすばらしい学校に是非仕上げてもらいたいと、立ち上がりを非常に楽しみにしたいと思っている。

◎酒田日本海寒鱈まつりに関して

記者／寒鱈まつりについて、今年前売りチケットがないのはなぜか。

交流推進調整監／酒田商工会議所が事務局をやっているが、酒田商工会議所も移転だとか、さまざま業務が立て込んで中々手が回らないというような話で、実行委員会としてもやむを得ないということで、今回はいったん売らないと。

記者／経費的に厳しいとか。

交流推進調整監／そういうことではない。

以上